

隔月発行
発行所
平塚市役所
平塚市平塚新街1.195番地
電話 1261~1268 番
印刷所 井上印刷所 電話773番

平塚市弘報

号 外

昭和二十九年 七月十五日

平塚市と旭村の合併

かがやける

合併の日に

平塚市長 柿澤篤太郎



柿澤市長

市制施行以来二十二年。その間市民各位から常に熱望され、歴代当局が絶え間なき苦勞をつづけて来た市域拡張が、このたび旭村の好意ある握手により芽出度く実現した。

由來平塚と旭とは花水川にへだてられ、水田に遠ざけられて相寄る縁の薄い感じを与えていた。

旭から見れば平塚はガシヤガシヤした植民地であり、震災被災と不幸のつづいた街であり、今しばらく様子を見なければウツカリ近づけないところであつたかも知れない。

又平塚から見れば旭は、大野か大磯を通らなければ行けないところであり、緑にかすむなだらかな丘陵は只々遠く美しく眺むべき地帯としか考えられなかつたかも知れない。

今まで合併といえは先づ大野、大磯とのみ考へるのが常識であつた平塚市民にとつて、この知らせは或は意外の感があつたかも知れない。

しかしながら市民各位。この道以外を選ばなかつた、止むなきなりゆきをお

察し願いたい。
又旭と平塚の合併が、実現し願いたい。

合併の日にあたって

旭村長 岩崎鯉之助



岩崎村長

平塚市と旭村が合併いたしました良きに際し、市民の皆様に對し一言御挨拶を申述べた機会を得ましたことは私の心にも光榮とするところであります。

私は昨年六月旭村第八代の村長として公選せられ、その後間もなく平塚市との合併という重大な事業を処理する当面の責任者となり

土沢のゆるやかな丘陵は高級住宅建設の適地である。將來この都市を代表する大植物園、大動物園の建設地或は大学を招致する場合、等々、この丘陵地帯をいづれにせよそれを求めることができるであらうか。

旭は無味乾燥な平塚にうるおいをもたらす地域である。旭地区あつてこそ平塚は多角形な都市と呼ばれ得るのである。

旭地区を都市化するには財源が必要である。しかし力を入れる張り合いのある土地だと思ふ。旭の住民のためだけにではなく平塚市全般の繁榮のために。

旭の人々は純朴である。この人々の心を傷つけないように仲良くしてゆきたい。

旭は純農村である。この純農世帯の幸福を計りつゝ順次急速に都市化でき得る道を選びたい。

旭は平塚の爲に名譽ある六十余年の歴史を閉じた。周囲の反對を押し切り、

今日迄これが解決に努力してまいつたのであります。この間、旭村民の理解ある援助に全く涙のじむ思いがございました。

元來旭村は東に展げて居る地形であります。南は高麗山その他の丘陵に、文化経済の面に於て從來から平塚市との接觸が盛かつたのであります。しかしその平塚市との交流も花水川によって隔てられておりました。旭の発展は丘陵の隨所に壁道を設けて南に進出するか、花水川に數個の橋梁を架けて道路を整備して東に進出するか、從來からの懸案でありました。旭が平塚市に隣接町村合併の構想として、道路橋梁の整備による土地の開拓が第一に擧げられて居るのを見て村民に期せずして平塚市との合併の氣運が醸成されたのであります。勿論村民の一部には合併の將來に對し危惧の念を持ち現狀の安易さに甘んじようとする保守の氣運もありました。そのために平塚市に對し、相当無理な注文をいしたこともありますが、平塚市民及びその代表である市議員、市議会の御理解を得て、こゝに合併の運びとなつたのであります。

平塚市と旭村の合併は偶偶成立した町村合併促進法

嵐の如く障害を排除し、住民の意志により、遠い將來を慮り、平塚の友情誠実を固く信じつゝ、静かにそこそかに由緒深い旭村という名を消した。

旭は合併に際し旭地区育英事業の創始を托した。平塚市議會は満場一致これを承諾した。親友に遺稿を托するが如き心境をもつて、少年の向學心を思いやる旭の眞情、將に尊敬おくる能はざるものがある。平塚市議會はやがて全市にこれを及ぼす深い決意の下に受け入

の公布などもありましたがそれはたんに一つのきっかけであつて、最大の理由は兩地住民の生活上必要に迫る合併の必然性に對する相互の理解の深さにあると思ふのであります。なほ旭村と平塚市の合併が他町村と平塚市との合併を促進する結果となることを企願する次第であります。

平塚市より昨年八月二十一日正式に合併の申入れを受けてより四月三日の村議會の合併決議まで、大小の會議を開くと四十八回に及びました。

その間淺學非才の當職に對し御協力御援助を頂きました村議會の皆様、合併研究委員會の方々、村民の方々と並びに市側の市長、市議會及び市民各位に對し深く感謝をいたす次第であります。

両住民共にこの合併の意義を忘れず、誠心誠意協力して大平塚市建設の完璧を期せねばならぬと存じます。特に合併の條件の如きは建設のためにやむにやまれぬ事業であり、或は又合併による農村地域發展の政策として計画せられたのでありますから、市民の方々におかれましては、深い御理解を賜わらんことを切望して御挨拶といたします。

れた。

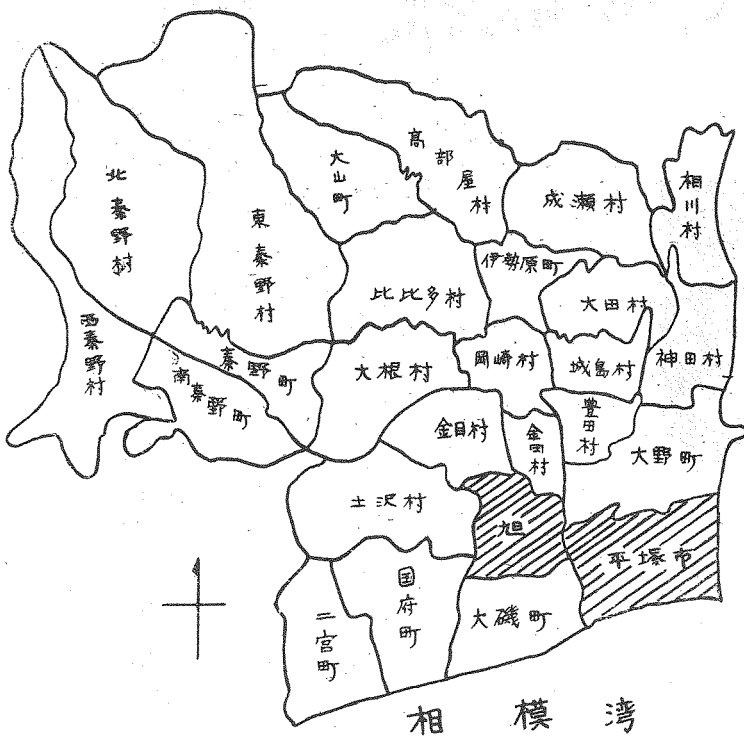
あゝ、私の親愛なる平塚市民各位よ。

斯くして成つた旭の合併を祝福して頂きたい。そしてこの合併が動機で、この合併あつてこそ始めて可能な平塚の運命のひらけ行く將來を祝福して頂きたい。

そして兄弟仲よく手を携えて明けゆく湘南の雄都として天下珠玉の大都市を建設しようではないか。

平塚、旭、合併万歳
大平塚市万歳

平塚市・中郡略図



合併

した旭村

合併した旭村をより以上市民の皆様に知って頂くため、その村勢の概要をお知らせいたします。

◇位置
東は花水川を境とし、平塚市・金田村に相對し西はえんえんとした丘陵をもつてかこまれ、土沢村に隣し、南は高麗山麓に続き名勝

千疊敷山を抱き大磯町に隣し、北は金目村と境を接している。

◇沿革
このように恵まれた旭村は、有史以前―石器時代―すでに早く先住民が住んで、原始生活を営んでいた。万田貝塚の如き縄文式後期の遺跡が遺存し、坂

間日向岡の古墳群、同地及び高根殿の上の横穴群があり、殊に跡の異のように三十四口を開いている万田八重久保の横穴群がある等、原始時代から古墳時代へかけての文化が顕る繁栄したことを記念している。

明治二十二年町村制の施行で、出縄、万田、高根、山下の四箇村を併合して山背村と稱し、公所、坂間、河内、徳延、郷の五箇村を併合して小中村と稱した。越えて四十四年には更に両村を併合して今日の旭村が誕生し、そして昭和二十九年七月十五日平塚市へ編入合併したのである。

◇面積
六、五二平方町
(昭和二十五年十月一日)

◇人口と世帯
内 男一、八三二人
女一、八一六八人
世帯 六〇七世帯
(昭和二十九年四月一日現在推計)

◇職業の分布と世帯数
農業三八〇、商業一五五、公務及び自由業一七六、その他三六

◇財政
昭和二十九年年度の当初予算は一、〇〇〇、四七三円で内容は次の通りです。

歳入
村民税 六、七八六、一七四円
平塚交付金 一、九五〇、〇〇〇円
公債企業及財政収入 一七、三〇〇円
使済及手数料 五、〇〇〇円

国庫支出金	一、〇六、四八四円
県支出金	三九五、七三〇円
寄附金	三〇〇円
繰越金	三三、六六四円
繰入金	三三、七八四円
雑収入	三三、〇六四円
計	一一、〇〇、四七三円
歳出	
議会費	二七、五〇〇円
役場費	三三、四〇〇円
警備費	五〇、四八四円
土木費	一〇三、六六四円
教育費	二、九五六、八〇〇円
社会及労働費	二六、八九五円
保健衛生費	三三、五一四円
産業経済費	一一、五〇四、四三三円
地価増徴費	一、〇〇〇円
財産費	七、九〇〇円
統計調査費	二、三三〇円
運賃費	九、八五〇円
諸支出金	九、八五〇円
予備費	一一、三三〇円
計	一一、〇〇、四七三円

◇選挙有権者数
男 九七九人
女 一、〇〇〇人
計 一、九七九人

◇教育
校名 学級 生徒数 職員
旭村小学校 一一 四五一 二三
三村組合立中学 一一 二四〇 一

◇主要生産物
水稲 三、二〇〇石
陸稻 一、六〇〇石
小麦 二、四五〇石
小麥 一、二〇〇石
雑穀 一、〇〇石
大豆 一、〇〇石
落花生 三、七〇〇石
甘しよ 二、〇〇〇石
じやがいも 七、〇〇〇石
きうり 一、五〇〇石
なす 一、五〇〇石
ねぎ 一、八〇〇石
その他 一、〇〇〇石
養蚕 三、五〇〇貫
養蚕 四、三〇〇貫

◇村内地位別による
田 二二町七反
畑 二二町二反
宅地 四五町一反
山林 四二町九反
その他 二二町六反
計 五二町五反

国旗をかがげましょう

● 7月15日 ●

平塚市と旭村の合併を記念し、大平塚市の将来を祝福するため「7月15日」は市内各戸に国旗の掲揚をお願いいたします。

平塚市役所
旭支所の設置

(電話 大磯 甲 三一 二番)

七月十五日から旭村役場が「平塚市役所旭支所」となります。旭村役場の職をそのまま平塚市役所旭支所にいたします。支所では日常の配給住民の皆さんに不便をおかけしないために、従来の旭村役場の職をそのまま平塚市役所旭支所にいたします。支所では日常の配給

「バス」新路線の 開通

旭廻りのバスの路線が増設されました。合併までに実現を望んでおりましたバス運行路線の増設について、神奈川中央交通によつて、去る七月五日から次のとおり新たにバスの運行を開始いたしました。

花水廻り―山下―万田―出縄―寺坂―生沢―国府新宿行
毎日十本